

2018年度 茨城キリスト教大学入学試験問題

政治・経済（A日程）

（解答は解答用紙に記入すること）

I 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

アメリカの第16代大統領である（ a ）は、（ b ）戦争の激戦地である（ c ）で行った演説の最後の部分で、(1) 人民の人民による人民のための政治、と説いた。この言葉に象徴されるように、民主政治は国民の意思に従って政治を行う民主主義の思想が根底にあり、人権の尊重、権力分立、法の支配、国民主権という原理に従った政治体制である。

民主政治は直接民主制と間接民主制に分類され、議会制民主主義は後者の中心的な考え方である。代表的な形態として、(2) イギリスを原型とする議院内閣制とアメリカなどの大統領制があげられる。日本は議院内閣制を採用しており、国権の最高機関である国会が内閣総理大臣を指名し、衆議院は内閣不信任案を決議する権限を持つという形態で、立法権を持つ議会と行政権を持つ内閣は連携している。内閣は法律の執行、予算編成、外交関係の処理、天皇の国事行為に対して助言と承認を行うなどの役割を果たし、実際の法律に従って政策を実施する。(3) 立法権と行政権に司法権を加えた三権が相互に抑制し、均衡しあうことで、権力の濫用を防いでいる。

問1 下線部(1)と関係する(a)～(c)について、適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問2 下線部(2)に関して、次の文章はイギリスの議院内閣制を説明したものです。(d)～(h)に入る適当な語句を下の1～6から選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

イギリスの議院内閣制では、(d) の信任に基づいて (e) が存立し、(f) には下院の第1党の党首が選ばれ、(g) を指名し内閣を組織する。(h) は影の内閣を組織する。

| | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 上院 | 2 | 野党 | 3 | 閣僚 | 4 | 首相 | 5 | 下院 | 6 | 内閣 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問3 下線部(3)は、三権分立について述べています。次の文章の i ~ l に入る適切な語句を下の 1 ~ 6 から選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

政府の役割は国防や治安の維持から、次第に種々のサービスの提供へと拡大する傾向がみられる。それとともに、国民の代表者で構成される国会よりも、行政機関による命令や規則に委ねられる範囲が拡大する、いわゆる (i) の優位という状態が生じ、このような国家は (j) と呼ばれる。

行政機関を動かすためには、専門知識や情報を持った専門の (k) の役割が重要であるが、運営には様々な弊害も指摘される。たとえば、事なかれ主義、セクショナリズム、形式主義等である。そのため、国や地方公共団体が行ってきた事業を民営化する (l) がすすめられている。

- | | | | | |
|--------|------|--------|-------|--------|
| 1 立法権 | 2 官僚 | 3 夜警国家 | 4 行政権 | 5 行政改革 |
| 6 行政国家 | | | | |

Ⅱ 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

地球上には一定の領土を持ち、国民が存在する数多くの国家が存在している。それぞれの国家は他国からの干渉や支配を受けない独立した主権を持って国際社会を形成している。このような社会は17世紀の三十年戦争を終結させる講和によって締結された (1) 条約が原型となっている。国際政治の主体は国家であるが、国家間の複雑な問題が生起する現代では、主権国家に加えて、国際連合などの国際組織や赤十字国際委員会、国境なき医師団などのNGO、多国籍企業等の役割の重要性が高まっている。

1945年10月に発足した国際連合は、国際平和と安全の維持に加えて、途上国支援、人道保護など、経済、社会、文化面での協調と解決を目指す国際組織として機能している。国際連合には多くの (2) 機関が設けられているが、安全保障の問題に関する安全保障理事会が強い権限を持って、国際平和にかかわっている。安全保障理事会は (3) 5ヶ国の常任理事国と10ヶ国の非常任理事国で構成されているが、実質事項は常任理事国のすべてが賛成しなければ決定されないという (4) 原則で運営されるために、対立があると有効な解決策を見出すことが難しくなる。

問1 下線部(1)に関して、この条約の名前を何というか。解答欄に記入しなさい。

問2 下線部(2)に関して、国際連合に設置されている機関に関連した以下の文章のうち、誤っているものを1つ選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

- ① 国際連合は、総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、国際司法裁判所、事務局の主要機関からなる。
- ② 経済社会理事会は、経済、社会、文化、教育、人権に関する問題を取り扱い、世界保健機関（WHO）などとも連携している。
- ③ 国連難民高等弁務官事務所は、母国を追われて難民となった人々に食糧支援などの救済を行う機関で、総会ではなく人権理事会によって設立された。

問3 下線部(3)に関して、5ヶ国の常任理事国とはどの国を指しますか。下記の中から該当しない国を1つ選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

- 1 アメリカ 2 イギリス 3 ロシア 4 ドイツ 5 フランス 6 中国

問4 下線部(4)に関して、この原則は、何と呼ばれていますか。解答欄に原則名を記入しなさい。

Ⅲ 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

生産や消費およびそれらの活動に関連した取り引きを経済活動といい、三つの経済主体が担い手となっている。

そのうち家計は、個人や世帯であり、自ら企業や政府に労働力を提供して、賃金などのかたちで労働所得を受け取ったり、資産を運用して (1) 資産所得を得る。こうした (2) 所得から政府に収める税金や、社会保険料を差し引いたものから、さらに消費支出を差し引いたものが [ア] となる。

企業は労働者を雇用し、機械設備を使って、財やサービスを生産し、この活動によって [イ] を得る。企業には、国や地方公共団体が出資し経営する公企業と、民間人が営利のために出資し経営する私企業などがある。私企業のうち、現在の日本の会社企業の形態には、株式会社、[ウ]、合名会社、合同会社などがある。

政府は家計や企業から (3) 租税や公債、社会保険料などの形で資金を調達し、公共事業や公共サービス、社会保障給付などの活動を行っている。このように、民間では十分に供給されない公共財や公共サービスを提供することが政府の役割の一つである。

問1 上の文の空欄ア、イ、ウに当てはまる適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問2 下線部(1)の資産所得に該当しないものを以下より1つ選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

- ① 株式の配当
- ② 預貯金の利子
- ③ 退職金
- ④ 保険金

問3 下線部(2)、(3)を説明する最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

Ⅳ 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

日本の経済は、バブル崩壊後の長期停滞に2008年の金融危機のショックが重なり、ゆるやかな成長の下で、デフレーション圧力からの本格的脱却には至っていない。一方、我が国の総人口の減少に伴う労働力人口減少は雇用市場の逼迫をもたらし、労働力不足に悩む企業も増えている。こうした中で賃金上昇が生ずれば、(1) 家計による消費支出増大が国内総生産（GDP）を増加させて景気を浮揚する効果が期待できるほか、(2) 企業による賃金コストの価格転嫁がインフレ促進効果をもたらし、日本経済をデフレーションの圧力から脱却させると期待されている。

この問題を考えるために、新規雇用市場が非正規雇用者と正規雇用者からなるとしよう。

まず、新規雇用市場における非正規雇用の供給は、一定賃金WNの下で上限NMまで行われ、そこで垂直になり、賃金WRに到達するので、図の折れ曲がった線分（[ア] から [イ] まで）が非正規雇用の供給曲線となる。また、正規雇用の供給RMは、賃金WRの水準でNMから始まり、総労働供給の上限LM（ $=NM+RM$ ）に達すると垂直になるので、図の折れ曲がった線分（[ウ] から [エ] まで）が正規雇用の供給曲線となる。こうして新規雇用の供給曲線全体は右上がりの階段状になる。

これに対して企業の賃金支払い能力を示す新規雇用需要曲線は、賃金が高ければ雇用需要は [オ]、低ければ [カ]。日本における現在の雇用市場は、雇用需要曲線D0が、供給曲線の線分ABと交わる均衡点E0の状態にあると考えられる。

企業としては、賃金の低い非正規雇用の供給がNMより多くC'まであるなら、D0が線分AC'と交わる点E0'を選びたい。しかし実際はE0'に到達できないので、 $E0'-A (=NM'-NM)$ が非正規雇用の人手不足となる。(3) 均衡点E0において、企業は非正規雇用NMに対しWNより高い賃金W0を支払っている。

もし企業が、製品価格への転嫁、あるいは機械設備の導入や組織の効率化等による生産性向上を背景に賃金支払いを増やせるなら、新規雇用に対する需要曲線はD1へと移行し、正規雇用の供給曲線と交わる新たな均衡点E1に到達する。この点で、非正規雇用の人手不足が、同じ数の正規雇用の新規採用数E1-Bによって解消されることになる。

こうして、均衡賃金はWRへと上昇し、景気拡大とデフレ脱却に向けた環境が整うことになる。

問1 下線部(1)を説明する最も適切な語句を選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

- ① 貿易不均衡化
- ② 需給ギャップ論
- ③ 有効需要の原理
- ④ 価格の自動調節機能

問2 下線部(2)を説明する最も適切な語句を選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

- ① コスト削減型イノベーション
- ② コスト・プッシュ型インフレーション
- ③ プライス・リーダー追随型価格上昇
- ④ デイマンド・プル型インフレーション

問3 下線部(3)の状況について最も適切な説明を選んで、その数字を解答欄に記入しなさい。

- ① 企業は非正規雇用者にWNの賃金しか払えないのにW0を払うために、倒産が多数発生している。
- ② WNより高いW0の賃金を非正規雇用者に払うことによって企業は人手不足を解消出来ている。
- ③ 企業は非正規雇用者の取り合いをしており、自分の所に引き留めておくためにWNより高い賃金W0を払っている。

問4 [ア]～[エ]に当てはまる最も適切な記号を解答欄に記入しなさい。

問5 [オ]～[カ]に当てはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問6 解答欄の図に、以下の線(曲線)を描き、記号を記入しなさい。

- (1) 需要曲線D0を描き、均衡点E0およびW0を書き込みなさい。
- (2) 均衡点E0'を書きこみ、NM'を横軸上に記入しなさい。
- (3) 需要曲線D1を描き、均衡点E1を書き込みなさい。
- (4) E0'とE1を破線でつなぎなさい。

V 次の文章を読み、設問に答えなさい。

1997年の地球温暖化防止京都会議で採択された議定書（京都議定書）は、国が温室効果ガスの排出を削減する義務を持つことになった歴史的な会議である。削減対象となった日米欧の国々は、一定の割合で二酸化炭素を削減することが義務づけられ、日本は1990年を基準にして6%を削減することになった。しかし、京都議定書は、先進国のみが温室効果ガスの削減義務を負うことから、地球全体からみると温暖化防止効果は限定的であるといわざるを得ない。新興国の経済的成長に伴って、先進国の排出量が相対的に低下することになったからである。

以後、全ての主要排出国が参加する共通の枠組みを構築すべく、1つの枠組みを主張する先進国と、先進国・途上国に二分した論議の継続を主張し、先進国から資金、技術の移転を図りたい途上国とで対立が続くことになった。

しかし、2015年の第21回気候変動枠組み条約締約国会議では、先進国・途上国の厳しい対立を乗り越えて、地球規模での温暖化防止を目指して、温室効果ガス排出の国際的なルールであるパリ協定が採択された。パリ協定は京都議定書に代わる2020年以降の地球温暖化対策の取り組みとして位置づけられるが、その主な目的は、地球の平均気温上昇を産業革命前と比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追い求めることであるとされる。

パリ協定によって、温暖化対策に取り組む共通の枠組みが成立したことは極めて意義深い出来事ではあるが、その目標を達成するのは非常に困難であることも事実である。温室効果ガスの排出を省エネ、再生可能エネルギーによって削減するとともに、植林等によって吸収のバランスを図るためには、膨大な温暖化対策のための投資資金が必要とされるからである。多くの資金を環境対策に効率的、かつ持続的に振り向ける仕組みづくりが必要である。

問題 上の文章は地球温暖化対策の動向について述べたものです。今後の地球規模での温暖化対策に関わる問題点について、各自の考えを400字以内で記入しなさい。

政治・経済解答用紙 (No. 1) (A 日程)

I

| | | | | | |
|----|-----------------|----|---------|---|----|
| 問1 | a | b | c | | |
| | リンカーン (リンカン) | 南北 | ゲティスバーグ | | |
| 問2 | d | e | f | g | h |
| | 5 | 6 | 4 | 3 | 2 |
| 問3 | i | j | k | l | 小計 |
| | 4 | 6 | 2 | 5 | |

II

| | | | | |
|----|-------------|----|----------|----|
| 問1 | ウェストファリア 条約 | 問2 | ③ | 小計 |
| 問3 | 4 | 問4 | 大国一致 の原則 | |

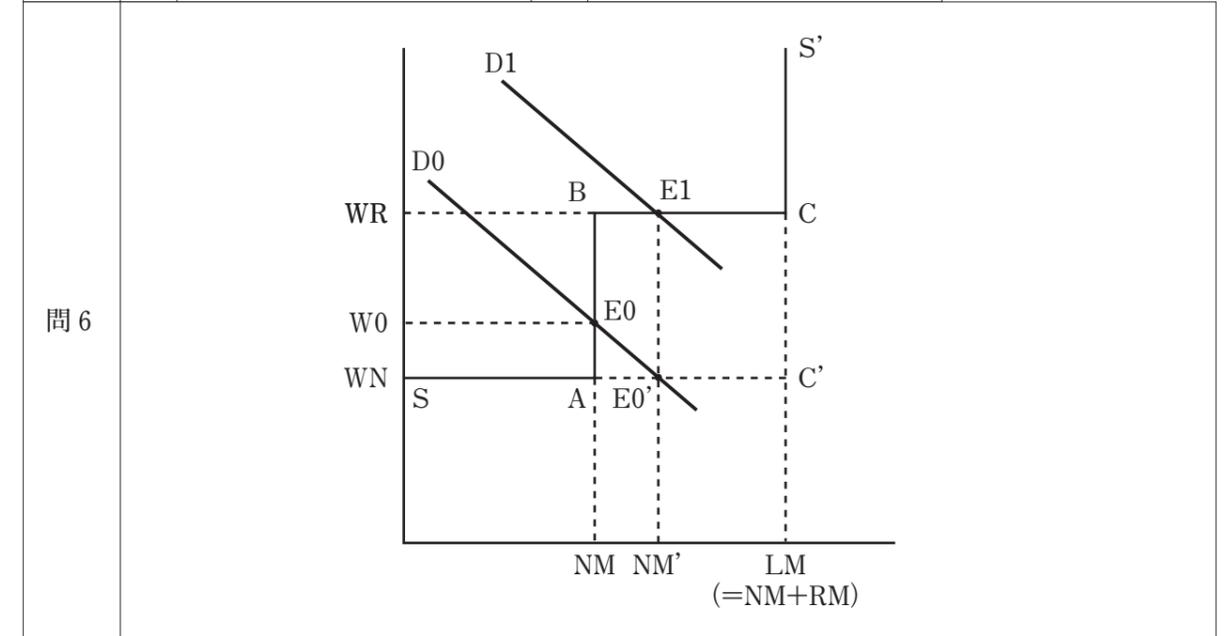
III

| | | | | |
|----|-----|-------|-----|-----------|
| 問1 | ア | 貯蓄 | イ | 利潤 (利益) |
| | ウ | 合資会社 | | |
| 問2 | ③ | | | |
| 問3 | (2) | 可処分所得 | (3) | 財政 (財政活動) |

| |
|----|
| 小計 |
|----|

IV

| | | | | | | | | |
|----|---|-----------|----|---|----------|---|---|----|
| 問1 | ③ | | 問2 | ② | | | | |
| 問3 | ③ | | | | | | | |
| 問4 | ア | S (WN) | イ | B | ウ | B | エ | S' |
| 問5 | オ | 少なく (小さく) | | カ | 多い (大きい) | | | |



| |
|----|
| 小計 |
|----|

政治・経済解答用紙 (No.2) (A日程)

V

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 先 | 進 | 国 | と | 途 | 上 | 国 | と | の | 間 | に | は | 、 | 地 | 球 | 温 | 暖 | 化 | に | 対 |
| す | る | 考 | え | 方 | の | 相 | 違 | が | 存 | 在 | し | て | い | る | 。 | パ | リ | 協 | 定 |
| に | よ | っ | て | 、 | 先 | 進 | 国 | と | 途 | 上 | 国 | が | 同 | じ | 土 | 俵 | で | 温 | 暖 |
| 化 | に | 取 | り | 組 | み | 、 | 地 | 球 | 規 | 模 | で | 温 | 室 | 効 | 果 | ガ | ス | の | 削 |
| 減 | に | 取 | り | 組 | む | 姿 | 勢 | を | 示 | せ | た | こ | と | は | 高 | く | 評 | 価 | で |
| き | る | 。 | し | か | し | 、 | 現 | 実 | 的 | に | 平 | 均 | 気 | 温 | の | 上 | 昇 | を | 2 |
| ° | ℃ | 未 | 満 | に | 抑 | え | る | 取 | り | 組 | み | を | 地 | 球 | 規 | 模 | で | 実 | 現 |
| せ | る | こ | と | は | 非 | 常 | に | 困 | 難 | で | あ | る | 。 | 膨 | 大 | な | 投 | 資 | 資 |
| 金 | が | 必 | 要 | で | あ | る | の | に | 加 | え | 、 | こ | れ | ら | の | 資 | 金 | を | 誰 |
| が | ど | の | よ | う | に | 負 | 担 | す | る | の | か | と | い | う | 仕 | 組 | み | を | 作 |
| ら | な | け | れ | ば | な | ら | な | い | 。 | 炭 | 素 | 税 | の | 導 | 入 | に | よ | っ | て |
| 、 | 温 | 室 | 効 | 果 | ガ | ス | を | 排 | 出 | す | る | 主 | 体 | に | 費 | 用 | を | 負 | 担 |
| さ | せ | る | 方 | 法 | 、 | あ | る | い | は | 排 | 出 | 量 | 取 | 引 | 制 | 度 | な | ど | の |
| 市 | 場 | メ | カ | ニ | ズ | ム | に | 任 | せ | る | 方 | 法 | 等 | に | よ | っ | て | 排 | 出 |
| を | 抑 | 制 | す | る | 効 | 果 | が | 期 | 待 | で | き | る | 。 | し | か | し | 、 | い | ず |
| れ | も | コ | ス | ト | に | 転 | 嫁 | さ | せ | る | 仕 | 組 | み | で | あ | る | こ | と | か |
| ら | 、 | 税 | 負 | 担 | の | 問 | 題 | や | 価 | 格 | の | 上 | 昇 | 等 | を | 招 | く | こ | と |
| に | な | る | 。 | こ | の | こ | と | か | ら | 、 | 脱 | 炭 | 素 | 社 | 会 | の | 実 | 現 | に |
| は | 、 | そ | れ | を | 実 | 現 | さ | せ | る | 社 | 会 | の | イ | ノ | ー | シ | ョ | ン | が |
| 必 | 要 | 不 | 可 | 欠 | と | さ | れ | る | 。 | | | | | | | | | | |

| | |
|----|--|
| 総計 | |
|----|--|

| |
|----|
| 小計 |
| |

| | | |
|------|--|-----|
| 受験番号 | | 2/2 |
|------|--|-----|